

課 題	天然更新カンバ類の効果的保育手法の確立						開発期間	令和元年度～令和 20 年度 2019 年 4 月～2038 年 3 月 (20 年間)
開発箇所	上川南部署 3 林班 石狩署 6043 林班	面積・ プロット数	上川南部署 0.72ha 1 か所 石狩署 0.26ha 4 か所	担当 部署	森林技術・支援センター	共同研究 機 関	森林総合研究所北海道支所	
課題の分類	中期 課題	技術開発 基本目標	3	技術開発 目 標	3	その他関係 施 策 等	国有林野の管理経営に関する基本計画	
現状と問題点	北海道国有林における人工林の約 6 割（45 万 ha）を占めるトドマツについては、主伐対象となる齢級に達しつつある。このような中、自然状況に応じ、天然力を活用した施業を主体とした育成複層林へと誘導等が森林の有する公益的機能の発揮の観点から求められているとともに、主伐後の再造林についてはコストを要することから、地がき処理によるカンバ類を主体とした天然更新は有効な手法と考えられる。地がき処理を行うことによって発生したカンバ類については、大型草本等による被圧を受け、その後の生育が芳しくないものも見受けられるとともに、台風等による風倒被害の跡地においても、天然更新により発生したカンバ類が一斉林の様相を示しているものの、そのまま放置すれば林分としての衰退を待つだけの状況のものも見受けられる。現状を踏まえると、天然更新により発生したカンバ類を適切に保育するための刈り払い・除伐作業の効果的・実用的な育成施業の技術開発が必要と考える。							
開発目的 (数値目標)	天然更新により発生したカンバ類を主体とする若齢林分を対象とした効果的な保育手法の確立							
開発方法	①台切り試験地：人工林主伐跡地において、地がき処理により発生したカンバ類を主体とする広葉樹稚樹の成林を図るため、競合植生による被圧を受けている稚樹を植生とともに一定の高さで台切り（刈高 25cm、50cm）し、萌芽更新を促進する試験を実施 ②除伐試験地：風倒被害跡地に天然更新した若齢カンバー斉林において、大型機械を想定した筋状の除伐を行い、残存木の成長を促進する試験を実施 ③過去の広葉樹保育事例の収集							
年度別計画	区 分	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4～8 年度	令和 9～20 年度		
	台切り 試験地	・試験地の設定 ・植生、更新調査	・萌芽更新補助作業 ・鹿柵設置 ・植生、更新、成長量調査	・植生、更新、成長量調査	・植生、更新、成長量調査 ※4, 5, 6, 7 年度に実施	・植生、更新、成長量調査 ※9, 12, 16, 20 年度に実施 ・完了報告（20 年度）		
	除 伐 試験地	・試験箇所の選定	・試験地の設定 ・プロットの設定 ・林分調査	・除伐作業 ・成長量調査	・成長量調査 ※5, 7 年度に実施	・成長量調査 ※9, 12, 16, 20 年度に実施 ・完了報告（20 年度）		
中間報告				○				
技術開発委員会 における意見								
原課・原班の 意見								
その他								